

被災地を勇気づけた 28 生協・95 人の志。 「東北仲間づくり支援」で 2,073人を拡大

6月6日～8月5日の2カ月間、
日本生協連の呼び掛けにより、
いわて生協・みやぎ生協・コープふくしまへ、
全国28の生協から95人が「仲間づくり支援」に入り、
大きな拡大実績を挙げた。
支援に入った職員たちは、慣れない土地での言葉の壁や、
手続き処理の違いなどに苦労しながらも、
震災で著しく減少した
宅配（共同購入）利用者数の回復に日々奔走。
受け入れた3生協も、支援者の志に
大きく勇気づけられながら拡大活動を進め、
前年を上回る結果を残すことができた。



岩手県宮古市の仮設住宅を回る、生協共立社の片桐洋平さん。

被災生協を 「人」で支援する

いわて・みやぎ・ふくしまの3生協を襲った未曾有の震災。宅配（共同購入）事業は4週間も停止を余儀なくされ、利用組合員は避難されたり、亡くなられたなどの理由で約2万人も減少。かつてない危機的状況に、日本生協連は全国の生協による「東北仲間づくり支援」を計画し、参加を呼び掛けた。

大規模災害時には、これまでも度々全国から物資や義援金を送ってきたが、「仲間づくり」の支援をするのは初めての試みだ。いずれの生協も厳しい事業環境にあるにもかかわらず、被災生協を応援しようと28生協・95人が呼び掛けに応えた。

支援に入る期間は、一朝一夕には結果を出せない仲間づくり業務の特性を踏まえ、最長で9週間（2カ月間）、最短で1カ月間とした。さまざまな事情で2週間や1週間などのパターンもあったが、8割は長期参加組だ。

支援を受け入れる支部では、被災した組合員や地域住民と接する心構えを持つてもらうため、配属初日に被災地を案内した。「間近に見る被災地の光景に絶句しながらも、翌日からは気持ち切り換え、支援に入った目的を全うしよう



いわて生協・宮古支部の朝の様子。最寄りの店舗が津波で流され、大勢の組合員が買い物に困っている中、生活に不可欠な商品を届ける宅配（共同購入）を利用してもらうことが、地域のくらしを守ることにつながる。

と業務に集中してくれた」と、支部の報告にはある。

支援者は毎日被災地を歩いて住民の話に耳を傾け、生協の商品や宅配の魅力を伝え、減少した利用組合員の回復に貢献。2カ月間で、いわて669人、みやぎ1,011人、ふくしま393人で計2,073人の実績を挙げた。

また3生協でも、5月9日～8月5日を復興目的の「仲間づくり強化月間」と定め、2万人拡大を目標に掲げてキャ

「東北仲間づくり支援」に参加して

おおくちただし
コープあいち **大口忠史**さん
(いわて生協・盛岡東支部、釜石支部で活動)



支部のメンバーとして迎えていただき、一員になったつもりで取り組む中、緊張感や集中力、そして連帯感が増していきました。釜石支部では、仮設住宅を訪問すると「九死に一生を得た」という方が本当に多く、驚きで言葉が出ませんでした。そんな中でも皆さんからは「前向きに頑張ろう」という言葉が出てくる。自らの仕事に対する気持ちの甘さを感じさせられました。

私は班組織にこだわりがあり、できれば班で利用してほしいと考えています。盛岡で一つ新班ができたことが、うれしかったです。生協は一つです。今後とも連帯していきましょう。

みたむらつるお
コープしが **三田村弦郎**さん
(みやぎ生協・柴田支部で活動)



津波で息子さんを亡くした80歳のおばあちゃんに、「話を聞いてもらってすっきりしました。(復興した姿を見に)また来てください」と言われ、「また来ます」としか言えず、拡大にならなかったこともありま。それでも、「この達成感と充実感はいったい何なんだろう」と思いました。

柴田支部の皆さんには、5週間の間、大変お世話になりました。実績が挙げられなかった日も、仮設でつらい話を聞いた日も、センターに戻れば皆さんの「おかえりなさい」の声に勇気づけられ、「明日があるさ」と元気が出ました。

えぐちのりお
おかやまコープ **江口典男**さん
(みやぎ生協・柴田支部で活動)



日常の積み重ねから関係が築かれ、地域の方にとってみやぎ生協の店舗が一番店であることがよく分かりました。カタログを広げる場面にすらなかなかたどり着けない中、トークの修正を考え抜きました。この活動は今後、自身の仕事にしっかりとつながると思っています。

何げない世間話から被災の状況や亡くなった人の話になり、涙される方もいました。そうした中でも、商品についての会話では、「おいしい」とか「便利」とか、「それは助かるわ」と笑顔になっていただける。多くの方と、商品を通じて笑顔で話げられました。



飯岡の住宅地で。いわて生協・宮古支部に支援に入った片桐さんは、ある程度土地勘を得た後は1人で活動を行ない、1カ月半以上宮古支部で仲間づくり支援を続けた。

メンバーに取り組んだ。これに支援生協職員の実績が上乘せされることで、結果的に3万1,122人の利用者拡大を実現することができた。(なお、パルシステム福島においても、パルシステムグループなどの共同での営業支援が7月4〜29日に行なわれた。詳細はP.28参照)

支援者の姿勢に勇気をももらった

8月31日、コープ東北サンネット事業連合(以下、サンネット)、いわて生協、コープふくしま、日本生協連の担当者らが集まり、「東北仲間づくり支援」の事務局総括会議を開催。活動の成果と今後の課題について話し合った。

「支援に来ていただいて、本当に良かった。2,073人の実績もありありがたいが、被災

地住民の役に立つため黙々と訪問活動を行なう支援者の姿に、多くの支部職員が勇気をももらった。3万1,122人の拡大も、だからこそ達成できたと思う」(サンネット・共同購入運営本部長の菅原藤人さん)

サンネットの理事会でも組合員から「全国の生協の絆と宅配事業の素晴らしさを感じた」「短期間で震災前の利用高に戻って驚いた」など活動を高く評価する声が寄せられたという。

仲間づくり支援は、送り出す側・受け入れる側、両者共に初めての体験。ましてや支援者にとって、支援に入る先は復旧途上の被災地。オリエンテーションを受けても、最初は戸惑うことも多かったようだ。

「受け入れ側は資料を全部準備する余

裕もなかった。募集段階でこちらの状況を詳しく知らせるが必要だったかもしれない」との反省がある一方で、「支援に入る前に福島の食文化を調べ、こちらに来てからは競合店舗を見てから地区の総訪問活動に入った人がいた」「千葉の被災地の写真を持参し、『うちも被災しているんです』とトークのきっかけにしていた」など支援者が独自の工夫で情報不足を補った例も報告された。菅原さんは、

「送り出す側は、人材の成長を願って派遣してくれたところもあると思います。拡大の仕事は『一匹狼』的なところもありますが、他の拡大担当者と交流することで、全国的な視点から自分の仕事はどうなのか分かった人や、一気に変身を遂げた人も多いのではないのでしょうか」と支援者の成長に期待している。

生協の絆、存在価値を再確認 被災地生協の担当者より

コープふくしま

共同購入担当常務理事

児島剛さん

「『東北仲間づくり支援』は、全国の生協のつながりと絆を再確認する機会になりました。拡大の仕事は宅配事業の要。支援元の生協は、その日々が一番重要な部分を止めて、被災地に職員を送り出し、力を与えてくれました。」

支援者の活動を見て、支部の職員たちも行動量を上げるための手法を身に付けることができました。今回学んだことを実践し、早く『コープふくしまは、ここまで利用者や供給高が伸びました。皆さんのおかげです』と言えるようになりたいですね」

「東北仲間づくり支援」に参加して

おのおのたつや
おかやまコープ 大野達也さん
(みやぎ生協・柴田支部で活動)



第一陣からずっと支援に参加されているコープとうきょうの福住さんから、「どんな状況であれ、今までしてきた仲間づくりをやればいいよ」という言葉を掛けられ、不安がなくなり「まずは全戸訪問しよう」という気持ちが高まりました。

インターホンで「みやぎ生協の大野です」と言うだけで玄関を開けてもらえる。「ドアオープン」の壁がない、みやぎ生協の信頼度の高さを実感しました。また、「灯油の配達をしてくれて本当にありがたかった」「避難所に配達担当者がお見舞いに来てくれてうれしかった」などのお礼の言葉が、訪問活動の活力につながりました。

いちほらひろのり
エフコープ 市原宏則さん
(コープふくしま・福島北支部で活動)



仮設住宅で、お連れ合いと息子さんを津波で亡くされたおばあさんに会いました。被災当日や今の生活のこと、死のうと思った(思っている)ことを1時間以上話してくださいました。私その方に何を話したか、恥ずかしながら覚えていません。翌々日訪問してみると、加入してくださり、さらにご親戚で足が少しご不自由な方がいるからと紹介もしていただきました。「真摯に話を聴き、相手の思いを少しでも受け止め、そして提案する」「組合員から紹介をいただく」という、生協の仲間づくりにおいて大事なことをあらためて学びました。

こうちんしゅう
コープおきなわ 幸地伸修さん
(コープふくしま・いわき支部で活動)



4月初め、6日間にわたり福島市内での支援に入りました。その際、ある副支部長の「トラックをしっかりとぎれいにしていますか?」という言葉や、ある店長の「私たちの店舗は被害が少なかったのだから、仲間づくりを頑張らしましょう」といった、被災地でありながらも気丈に、あるべき姿に戻ろうとしている姿に感動し、再び仲間づくり支援に参加させていただきました。「今回の震災で、食の安全性を考え直した」とおっしゃる方と2時間にわたって話し、最後に加入いただけたことが印象に残っています。

いわて生協

共同購入事業部長

藤原高宏さん

共同購入運営部長

熊谷修さん

「支援に来ていただいた一番の収穫は、もちろん669人の実績です。支援者の高いスキルに学んだり、いわて生協では行なっていない拡大方法なども参考になりました。」

支援者は皆さん、数の拡大というより、しっかりと利用してもらおうことを意識して活動していました。帰る時は『自分の支部に持ち帰って生かしたい』と話してくれて……。素直に学ぶ姿に、あらためて生協の原点を気付かせてもらいました」

みやぎ生協

共同購入運営本部課長

秋葉良広さん

「支援に入ってくださった方々は、皆さん

志の高い人たちばかりでした。支部の総括を見ると「愚痴一つこぼさず黙々とローラーをかける、その姿勢に感銘を受けた」という感想がとて多かったです。そんな支援者の姿に支部職員たちは「自分たちが一丸となって頑張らなければ」と奮起したのです。

また、みやぎに入って、拡大の数だけでなく利用を意識した仲間づくりを課題にした方や、アンケートに『日々の予算に追われて忘れがちだった生協の存在価値を実感できた』と書いてくれた支援者もいました。総じてプラスのコメントが多く、今回の仲間づくり支援が成功だったことを物語っていると思います」

(文 早坂恵美 / 写真 山本明文)

【支援期間】

①6/6～8/5の9週間 ②6/6～7/1の1カ月間 ③7/4～8/5の1カ月間

【3生協の拡大実績・支援者数・支援元生協】

●いわて生協 拡大669人

支援者27人(生協共立社、コープぐんま、とちぎコープ、いばらきコープ、コープネット事業連合、コープかながわ、ユーコープ事業連合、コープながの、コープにいがた、コープあいち、大阪いずみ市民生協、コープかごしま)

●みやぎ生協 拡大1,011人

支援者42人(コープさっぽろ、生協共立社、ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょう、ユーコープ事業連合、コープながの、コープしが、大阪いずみ市民生協、おおさかパルコープ、おかやまコープ、鳥取県生協、コープしまね、コープやまぐち、コープかがわ)

●コープふくしま 拡大393人

支援者26人(生協共立社、コープいしかわ、大阪いずみ市民生協、エフコープ、ララコープ、コープおおい、生協水光社、コープおきなわ)

※ 特定地域を全戸訪問すること。